

春風秋霜

12月号

令和3年12月1日
島田市教育委員会より
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 『命を守り抜く』から

文書を整理していたら、宮城県石巻市立大川小学校の校長だった千葉照彦氏の講演資料が出てきました。その時の講演のタイトルが『命を守り抜く』です。千葉さんは、震災時に石巻市立湊小学校で勤務していましたが、震災後大川小学校の校長として学校再建に努力した方です。千葉さんは、大災害を通して学んだことを私たちに伝えています。そのいくつかを紹介します。

- ・ 災害初期は自らの情報収集が重要となる。市役所が機能しない場合もあるので、行政からの情報を待っては、対応が遅れる。
- ・ 校長以外も声を出せる緩やかな傾斜集団が求められる。
- ・ 災害マニュアルにすべてを盛り込むことはできないが、想定外は言い訳にならない。
- ・ 人数分無い食料は絶対に配布しない。
- ・ 頼りになるのは教員と自衛隊。自衛隊は約束したら必ず実行してくれた。
- ・ どんなに忙しくても、子供の訴えは聞いてあげる。
- ・ 子供は家庭・地域の防災意識を変える存在になる。
- ・ 脅しの防災教育は効果がない。

12月には地域防災訓練が行われます。子供たちの参加を呼び掛けるとともに、災害時を想定した学校体制の確認もお願いします。

2 コロナ対応について

急速に感染者が減り、島田市でも10月6日の1人を最後に陽性者0人が続いています。専門家の話では、ワクチン接種が広がったことと、感染の急拡大に危機感をもち感染防止を徹底した人が増えたことが、減少した要因だそうです。個人的には、感染率が16分の1と大幅に下がり、重症化を防ぐワクチン接種が最大の要因と思っていたので、個々の感染防止対策が無くては拡大を防げないと知り驚きました。また、諸外国の感染再拡大の理由が、ワクチン接種後マスクなしの生活に戻ったためとの報道に、ワクチンを接種しても当分の間は個々の感染防止対策を続ける必要があると思いました。

市議会常任委員会において、青山議員から「学校ではマスクをしないだけで非国民扱いをしているそうです」との発言がありました。青山議員の指摘した発言が教師か子供のものかは不明です。どの学校で起きたのかも分かりません。これまで学校が続けてきた感染防止対策の効果は、校内での感染拡大が見られないことで立証済みですが、特別な事情を抱えた子供もいるので、同調圧力は時として差別や偏見につながるという意識を持ち続け、必要に応じて子供たちへの指導をお願いします。

3 自動検温器の寄贈について

11月11日(木)に島田ロータリークラブから顔認証機能付き自動検温器をいただきました。島田ロータリークラブからは、これまでも大型テレビやタブレットなどICT機器をい

ただき、教育センター等の教育環境は随分整いました。そのため、今回は学校行事等での使用要望の多い自動検温器をいただきました。

各学校において、保護者や地域の方々が集まる機会に使用していただきたいと思います。学校教育課で保管しているので、希望する学校は申し出てください。

4 学校訪問から

教育委員は、11月15日（月）に島三小と島五小の学校訪問を行いました。どちらの学校も大変落ち着いた雰囲気の中で授業が行われていました。また、各学校とも ICT を積極的に活用していました。

島三小では授業だけでなく、不登校児とのオンライン授業が始まったと聞きました。島五小では低学年でも積極的に使う様子が見られ、栽培した大根の写真に気付いたことを書き込んでいました。クラスルームを使い考え方をクラス全体で共有する授業や、掲示物の中にもパソコンを使った授業のまとめが見られ、端末の活用が着実に進んでいることを実感しました。今後はクラス間で取組の差が出ないようにし、全ての子供が端末の効果を実感できるようにお願いします。

肘かけ椅子

岩本 申久 図書館課長

「散歩道」

毎朝、大津谷川を散歩すると栃山川頭首工でせき止められた場所に 100 羽を超えるカモたちが泳いでいます。カモは、冬鳥でハクチョウなどと同じく渡り鳥だと言われています。

「え！春先になるとテレビでカルガモの親子の引っ越しする姿を報道しているよ。」と言う方は多いかもしれませんが、カモの中でもカルガモは他のカモと違い 1 年中日本にいます。カモ = カルガモだと思い、カモは年中いる鳥だと思っている人も多いかもしれません。ちなみに俳句などでカモの季語は冬となっています。

カルガモは、雄雌とも地味な茶色系で、マガモの雄は派手な色みです。川のカモは、ほとんどが地味な色なのでカルガモ？それとも雌のカモなのかな？と思い散歩すると途中に野鳥の描かれた看板があることに気づきました。

大きな看板に六合中学校美術部、道悦島自治会、県土木事務所と記載されていました。みんなに楽しんでもらうため地域で連携して作成したのが分かります。イラストには、きれいな色をした鳥たちが描かれ、同じ種類のカモでも色が違うものも描かれていました。

カモたちのほとんどが地味な茶色のカモなのに、なぜか派手な色のマガモが描かれていたため疑問に思い調べてみました。すると色の違いは、繁殖期と非繁殖期で羽が生え代わり、外観が変わることだと分かりました。マガモの雄は繁殖期に雌にアピールするため目立つ姿になります。人間と一緒に相手に好かれようと PR をするため服を替えるのです。しかし、目立つという事は、敵に見つかり危険を伴うため繁殖期が終わると茶色系の地味な姿（エクリプスというそうです。）になるので雌と変わらない色でとなるそうです。

マガモは、氷が張る時期になると求愛の繁殖期が始まるようなので、これから寒い季節になりますが、色が綺麗なカモと出会えることを楽しみに散歩を続けていきたいと思っています。